

要旨

深刻な抑圧状態からの参加：SLAPP 訴訟により「熱意をくじく」

公衆参加に対する戦略的訴訟（Strategic Lawsuits Against Public Participation : SLAPP 訴訟）は比較的最近の法的現象である。これらの訴訟は、論争が生じている開発や提案に対して公衆が公の場で発言する能力を鎮圧すること目的とする。こうした訴訟は、現状維持のために、相手の資源と感情を拡散しようと提起される。SLAPP 訴訟は、コロラド大学のジョージ・プリング教授やペネロペ・カナン教授による画期的な研究により、1980 年代に確認された。SLAPP という方法は、人々が発言するのを罰するものであり、「熱意をくじくもの」と表現された。本稿の目的は、SLAPP のプロセスを概観し、こうした方法により民主的自由を抑圧するという悪影響について素描することである。事例研究を用いて、ヨーロッパ、東南アジア、太平洋および北アメリカの多くの裁判において、いかにこの現象が広がっているかを示す。焦点が絞られるのは、the Gunns 20 訴訟であるが、これは、南西タスマニアのベル湾地域のパルプ工場の建設と原生林からの資源取得という、論争的な提案から生じた訴訟である。最後に、本稿は、反 SLAPP 訴訟、それに対抗する SLAPP 訴訟、および裁判所を通じた手続改革を含め、SLAPP 訴訟への対応を素描する。

ジュディス A. プレストン

BA LLB (マッコーリー大学), MEL (シドニー大学)

2013 年 2 月 25 日